

『施工パッケージ型積算方式』の導入による積算効率化の取り組み

総合技術政策研究センター 建設システム課

主任研究官 吉田 潔 積算技術係長 大野 真希 研究官 永島 正和

部外研究員 中原 敏晴 建設システム課長 塚原 隆夫



(キーワード) 施工パッケージ、積算効率化、総価契約単価合意

1. はじめに

国土交通省は、積算の合理化や多様な入札契約方式の導入の取り組みを進めてきている。これに資するため、国土技術政策総合研究所においては、積算効率化を目的とした新しい積算方式『施工パッケージ型積算方式』を提案し、各地方整備局の協力のもと、土工や舗装など63の施工パッケージについて積算基準書類を整備した。本稿では2012年10月から導入された、新たな積算方式について解説する。

2. 『施工パッケージ型積算方式』の概要

施工パッケージ型積算方式とは、直接工事費の積算は、施工単位ごとに機械経費、労務費、材料費を含めた1つの単価（以下「施工パッケージ単価」という）で計上し、共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の間接費は、従来の積上積算方式と同じ率式等を用いて計上する積算方式である。図1に積上積算方式との積算体系の相違を示す。

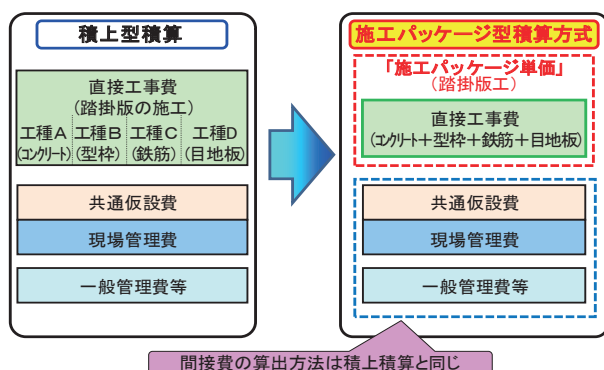


図1 積上積算と施工パッケージの積算体系の相違

施工パッケージ単価の設定にあたっては、実態を踏まえつつ、適正な価格をより多く収集し、分析することが重要である。そこで、図2に示すように、総価契約単価合意方式により受発注者間で合意した単価（合意単価）のほか、入札時に応札者から提出

された工事費内訳書の単価（応札者単価）も活用し、より標準的な単価を設定することとした。併せて、複数年の単価傾向や実態調査の変動状況も確認することで単価の妥当性を確保することとした。

また、透明性確保のため、設定した施工パッケージ単価および利用方法を公表している。

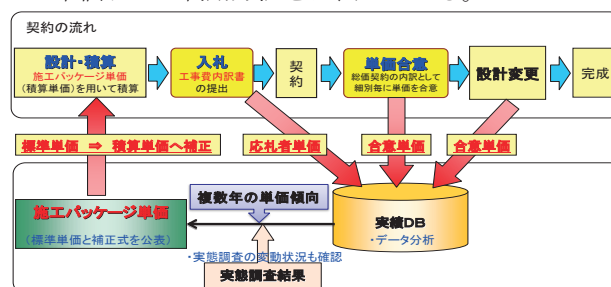


図2 「施工パッケージ単価」の設定方法

3. 積算効率化の事例

踏掛版工の施工パッケージ化を例にとると、各地方整備局の標準設計や積算事例を分析し、型枠、鉄筋、目地などの費用を含んだコンクリート1m3当たりの施工パッケージ単価として設定した。これにより積上積算では合計45必要であった積算条件が5つに簡素化された。施工パッケージでは型枠の面積の集計などが不要となっており、設計業務や積算の準備まで含めると積算効率化の効果は大きい。

4. まとめ

職員数が限られる中で、発注者は品質確保等への対応を強く求められており、積算労力の軽減は重要な課題である。今後は主要な工種の「施工パッケージ化」を、2013年度を目途に完了させる予定である。また、受注者および発注者の課題把握に努め、必要に応じて制度改善を行う取り組みを継続していく。

http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme_sekop.htm